

海洋建筑工学科

海が大好き  
建築が大好き  
2022





## 建築のその先へ

海洋建築工学科では、建築学の基礎知識を修得するとともに、海洋及びウォーターフロントの環境を理解し、防災安全に優れ多様な立地環境に適合できる建築構造、快適かつ自然環境や景観に配慮した都市・建築計画などを学び、人と地球環境に優しい都市や建物を計画・設計・施工できる建築家・技術者を養成しています。



本学科では、教育研究上の目的に定める人と地球環境に優しい建築物や都市空間を計画・設計・施工できる建築家・技術者を養成するため、右の5つの能力を身につけることを目標としています。

## 建築工学の専門知識の修得

---

- ◎海洋建築工学の基礎となる建築工学の専門知識を修得し、陸・沿岸・海洋で建築できる建築技術者を旨す。

## 計画・デザイン技術の修得

---

- ◎海洋及びウォーターフロントの空間利用及び開発手法に関わる専門知識を修得する。
- ◎人間社会が快適な営みをするために、自然環境と調和のとれた都市空間、ウォーターフロント及び海洋空間の計画・デザイン技術を修得する。

## 環境技術の修得

---

- ◎ウォーターフロントや海洋空間の環境を理解し、海洋建築物の計画・設計・施工に反映させる環境技術を修得する。
- ◎快適かつ環境に配慮した建築物や海洋建築物に必要な環境を維持・管理・保全するための技術を修得する。

## 構造技術の修得

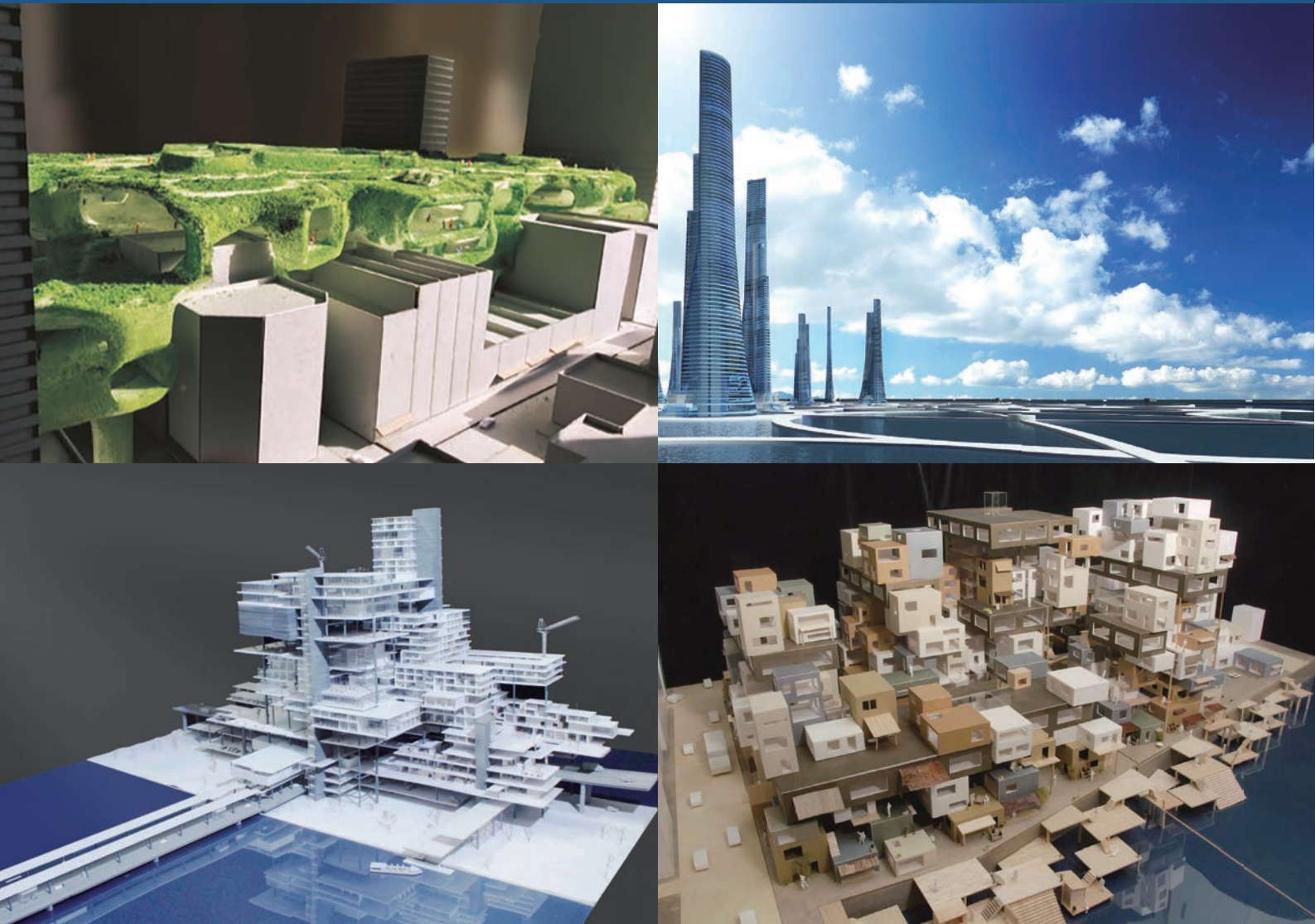
---

- ◎過酷な自然条件に対応した建築物の構造設計・施工に関わる構造技術を修得する。
- ◎広い視野に立った豊かな発想力・技術力・問題解決能力を養い、建築物や海洋建築物に適した構造形式の選定や構造技術を弾力的に開発できる能力を身につける。

## 高い倫理観を持つ技術者の養成

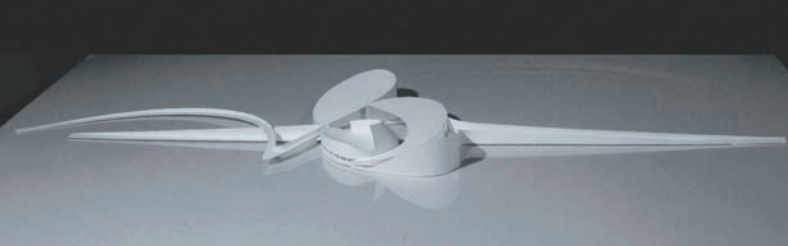
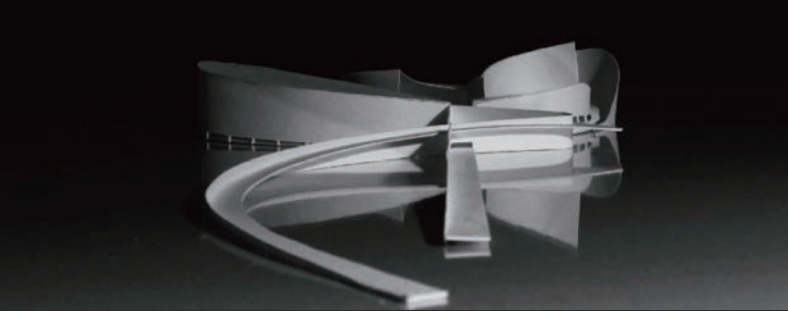
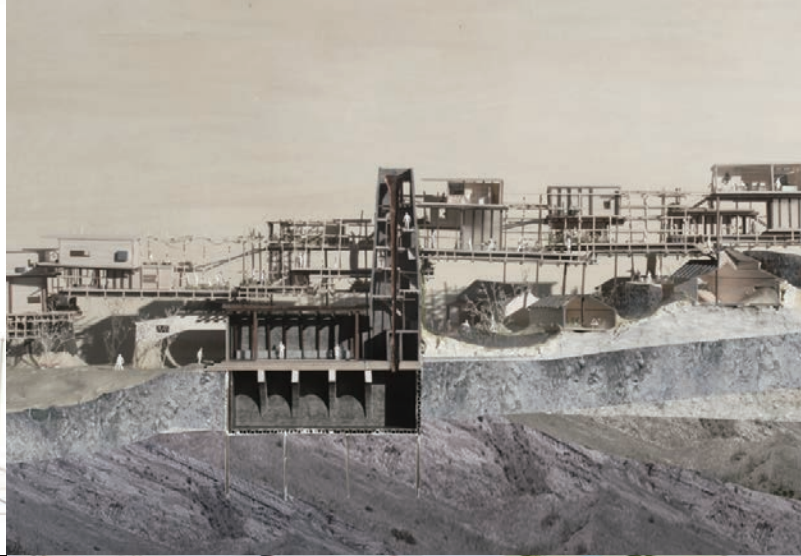
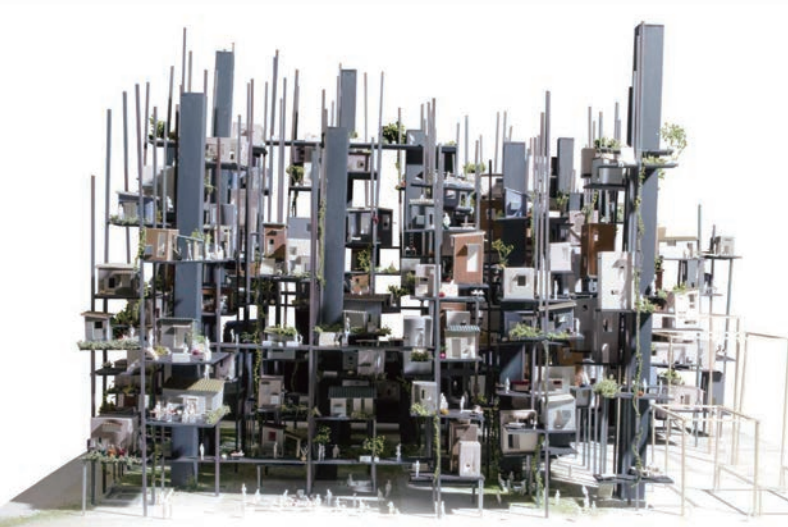
---

- ◎海洋建築工学科が「学修・教育目標」に掲げる高度な技術について、その便益と不利益の双方を理解し見分けて利用できる優れた行動規範を養成する。



## 斬新・繊細…そして、未来へ繋がる提案

海洋建築工学科では、学生の設計作品が「毎日・DASデザイン賞」で6年連続日本一を受賞するなど、1978年の開校から約40年間で35作品が日本一に輝いているほか、300作品以上がコンペで受賞しています。また、ナノテクノロジーによるセルロースナノファイバーなどの新しい素材や、海洋プラスチックごみを再利用した建築など、海の資質を活かし、SDGsに取り組む提案も行っています。



**日本一受賞実績 35 作品** (卒業設計 23 作品、建築学会コンペ 1 作品、その他コンペ 11 作品)

日本二位受賞実績 23 作品、日本三位受賞実績 12 作品、その他コンペなどでの受賞実績 363 作品

4p左上:「Singapore Aquitecture」服部立 (現・日本大学大学院) (第50回毎日DAS学生デザイン賞「金の卵賞」(日本一)受賞)

4p右上:「塵海の廻都」黄起範 (現・鹿島建設株) (第49回毎日DAS学生デザイン賞「金の卵賞」(日本一)受賞)

5p左上:「新宿群中街一新宿ゴールデン街更新計画」高橋翔 (現・大和ハウス工業株) (第47回毎日DAS学生デザイン賞「建築部門賞」(日本一)受賞)

5p右上:「故郷の星景」堤昭文 (現・株)プランテック総合計画事務所) (福岡デザインレビュー2015最優秀賞(日本一)受賞)

4p左下:「浸都の改築 - 海拔ゼロメートル地帯における街区更改計画」涌井匠 (現・大成建設株) (MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 空間デザイン部門賞 (日本一) 受賞)

4p右下:「月島プリコラージュ - 東京都中央区月島地域における複合集合住宅の提案」石原幹太 (現・清水建設株) (第44回毎日DAS学生デザイン賞「建築部門賞」(日本一)受賞)

5p左下:「遷ろう風景 - 東京湾における散骨場」杉田陽平 (現・株)竹中工務店) (第43回毎日DAS学生デザイン賞最優秀賞「金の卵賞」(日本一)受賞)

5p右下:「庭防に住まう - 新堤防設置計画に伴う集合住宅の提案」細谷祥太 (現・旭化成ホームズ株) (第42回毎日DAS学生デザイン賞「建築部門賞」(日本一)受賞)



## 人々の豊かな生活に真に貢献する 「海洋建築工学科」の実践力

海洋建築工学科には国内有数の充実した実験施設があり、実施されている研究は、都市デザイン・防災・資源エネルギー・環境保全など多岐に渡ります。自治体や企業と共同で行うプロジェクトも多く、学生が主体となって取り組むこともできます。また、日本国内だけではなく、世界中の大学とも積極的に交流をしています。



## 世界にひろがる学術交流

本学科では、国際学術研究活動の充実及び教育研究における国際交流の促進を積極的に行っています。

スイトラスクライド大学 (スコットランド、イギリス)  
 ダルムシュタット工科大学 (ドイツ)  
 国立カルナタカ工科大学 (インド)  
 ホーチミン市天然資源環境大学 (ベトナム)  
 西安理工大学 (中国)、西安建築科技大学 (中国)、青島理工大学 (中国)  
 韓国海洋大学校 (韓国)  
 国立成功大学 (台湾)  
 フィリピン工科大学 (フィリピン)、セブ工科大学 (フィリピン)  
 ハワイ大学 (アメリカ)、マサチューセッツ工科大学 (アメリカ)  
 サンパウロ大学 (ブラジル)

6p左上：宮城県気仙沼市における建築一体化防潮堤の提案。海洋建築工学科＋交通システム工学科＋大成建設設計部の共同提案。

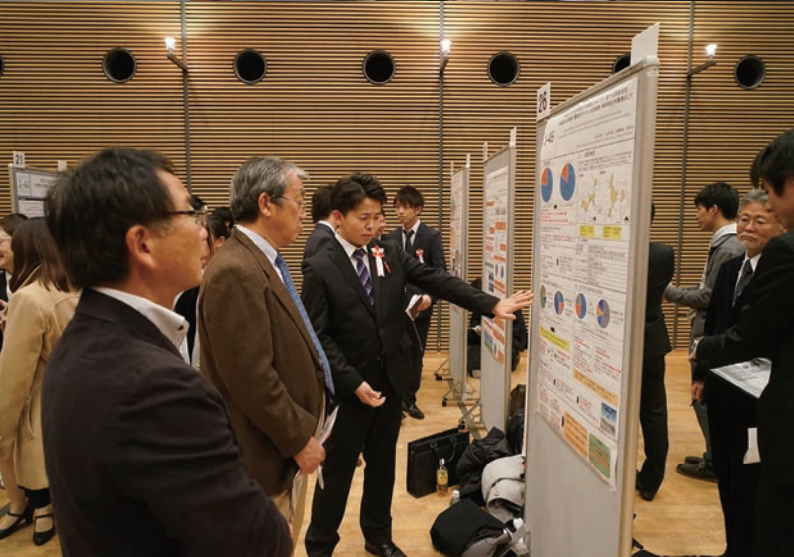
6p左下：ハニカムチューブPCシステム実験

6p右上：中華人民共和国ハルビン市 佐藤信治＋AtelierK＋中国建築科学研究院の共同設計

6p右下：新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) との波力発電装置の実証実験 (山形県・酒田港)

7p左上：Bamboo Pergola (東京都港区・お台場海浜公園における竹を使用した日除けと海辺の図書館)

7p左下：福井県敦賀市水島での海岸環境修復活動



## 楽しみながら学ぶ、充実の学生生活 ～海が好き、建築が好き、海洋建築工学科～

海洋建築工学科は、学生と教員の距離が近いのも大きな特徴です。  
皆さんの将来の夢を実現させるため、授業や研究、イベントを通じ、学科一丸となって  
4年間サポートをしていきます。





8p左上：1年生では海洋建築工学の基礎や設計製図を段階的に学んでいきます。授業では少人数教育を多く実践し、学生の理解度に合わせた指導を行っています。

8p右上：1年生後期からは実験・演習を通して技術を修得します。例えば、実験の授業では、実際に自分たちで部材を作り、それを壊すことによって構造部材の特性を身につけていきます

9p左上：希望者に対して、学科主催の欧州研修旅行が毎年3月に開催されています。約2週間の日程でヨーロッパ各地の有名建築物に触れ、建築と文化に対する理解を深めます。

9p右上：韓国海洋大学、青島理工大学との学術交流プログラムの一環で、日韓中の学生混成チームによる設計競技（デザインキャンプ）を開催しています。

8p左下：3年生からはより専門的な知識を身につけるため、各研究室に所属します。研究では、指導担当教員による指導を受けるだけでなく、海洋建築工学科が所有する実験研究施設を学生が主体となって使用することができます。

8p右下：自らが行った研究成果は、学生自身が学会などで発表することができます。国内の学会だけでなく国際会議でも研究発表できます。

9p左下：海洋建築工学科では、学科独自に学生との個別面談を年2回実施しています。学生の進路や学業に関する相談については、学科全体でサポートをしていくというのも本学科の大きな特徴です。

9p右下：学生生活の集大成となる卒業研究は、知識や技術の向上だけでなく、文章力やプレゼンテーション能力の向上も図っています。また、卒業研究の成果を教員や学生の前でプレゼンする発表会も行われます。

# MAP

海洋建築工学科の学生は、4年間船橋キャンパスで学びます。  
 広大で自然豊かな船橋キャンパスの中で、特に海洋建築工学科の学生が  
 良く利用する施設を紹介します。





### ① 中央門

最寄り駅は船橋日大前駅で、駅からキャンパスまでは徒歩0分です。大手町駅より約35分(乗り換えなし)、津田沼駅から約20分とアクセスも良い立地です。



### ② 13号館(研究室)

海洋建築工学科の研究室が入っています。海洋建築工学科には12の研究室があり、日々技術の発展や、社会をより良くするための研究が行われています。



### ③ インターネットカフェ(13号館)

PCで自主学修を行う環境が整っているだけでなく、22時まで使用できるリーディングルームや、就職支援を行うキャリア支援センターも併設されています。



### ④ 14号館(教室/学生相談室)

授業を行う校舎です。5階建ての14号館には、少人数~大人数に対応したそれぞれの教室があるほか、教務課や学生課など事務手続きを行う場所も併設されています。



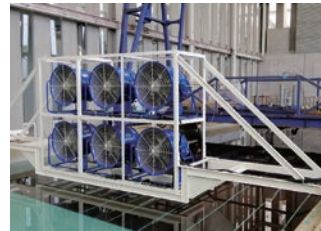
### ⑤ プラザ習志野(学生食堂/コンビニエンスストア/購買部/談話室)

レンガ造りの特徴的なプラザ習志野には、豊富なメニューを取り揃えた3つの食堂があります。学生の食生活を考え、昼だけでなく朝晩も営業しています。また、購買部では文房具の他、設計製図の授業で必要になる模型材料や、製図道具も学生価格で用意しています。



### ⑥ テクノプレース15

「交流の場を核とした創造性を育む施設」「地域社会に開かれた施設」「周辺環境との調和と地球環境への配慮」をコンセプトに設計された総合実験施設。施設内には海洋建築工学科の所有する水槽実験室や氷海実験室が設置されています。



### ⑦ 水槽実験室(テクノプレース15)

水槽実験室は奥行き27m×幅7m、水深1mの平面水槽と、長さ30m×幅60cmの二次元水槽があり、水槽に取り付けられている造波装置や造風装置を使用することで、波力による発電実験等海洋資源・エネルギー開発に関する研究や、津波の特性と建築物への影響に関する実証実験が行われています。



### ⑧ 氷海水槽(テクノプレース15)

海洋建築物には、波力・流体力・風力以外にも結氷による「氷荷重」を考慮した設計が必要になります。氷海水槽ではマイナス35度までの超低温の氷海を再現することができ、極寒地における海洋構造物の安全な設計に関する実験が行われています。



### ⑨ 大型構造物試験センター

世界3位の規模を誇る、最大圧縮力30MN(3000ton)の大型構造物試験機が設置され、建物に使用される実物大の試験体を用いて実験を行うことが可能です。他にも、地震を再現する振動実験装置が設置され、耐震実験や振動実験等が行われています。



### ⑩ 理工スポーツホール

バスケットコート2面分の面積があるスポーツホールには、ランニングコースやマシントレーニング室があり、学生が自由に運動できるようになっています。



### ⑪ 図書館

理工学部図書館では約53万冊の蔵書数を誇り、学術雑誌のタイトル数は約3700にのぼっています。電子ジャーナルや国内外のデータベースを積極的に導入し、学生の研究活動をサポートしています。



### ⑫ 製図室(12号館)

設計製図の授業を行うための教室です。少人数用の教室となっており、学生一人一人に机が割り当てられ、デザインの特長による個別指導を受けることができます。



# カリキュラムの特徴

1年生では専門教育の基礎に相当する科目を学ぶとともに、社会人として求められる幅広い教養とコミュニケーション力を身につけます。2、3年生には、より専門性の高い科目が設置され、意匠・計画を学ぶデザイン演習、実現象を体験し理解する実験・実習の科目、建築物の構造設計に必要な知識を修得する構造力学、材料・施工法及び建築計画などの科目、海洋建築物の建設に最も重要な海洋環境の理解を目的とした科目から構成されています。さらに3年生からのゼミナールでは、授業の枠を超えて高度な知識・技術を身につけるために、少人数教育の授業が行われています。

## 総合的な専門教育科目

- 【1年生前期】海洋建築工学インセンティブ、  
情報基礎、海と建築
- 【2年生前期】応用数学及び演習
- 【2年生後期】海洋建築工学キャリアスタディ、  
情報システム概論、  
コンピュータープログラミング
- 【3年生】ゼミナール、  
海洋建築工学キャリアデザイン(前期)
- 【4年生】卒業研究(通年)、  
海洋建築工学総合演習(前期)、  
総合演習(前期)

専門教育科目のカリキュラムは「計画系科目群」、  
「構造系科目群」及び「環境系科目群」の3つの柱から構成されています。  
これらの科目群の中から将来の技術者像にあわせて科目の選択ができ、  
そこから得られる知識及び技術を将来的に生かせることができます。

### 計画系科目群

空間計画・  
デザイン能力



▶▶ p14

### 構造系科目群

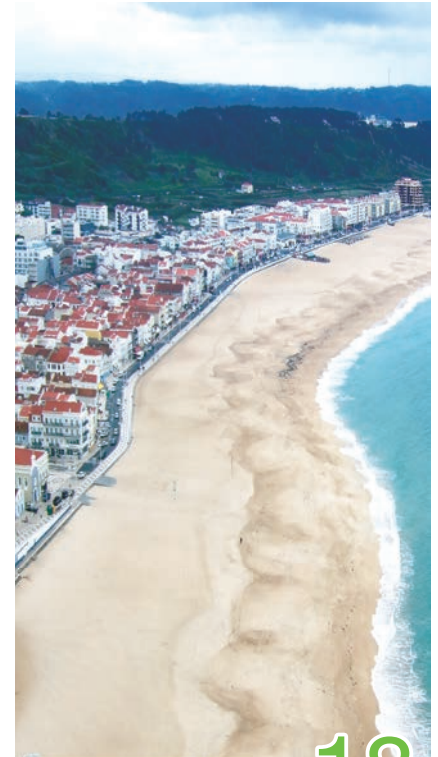
構造設計・  
施工能力



▶▶ p16

### 環境系科目群

環境の持続的  
利用能力



▶▶ p18

計画系科目群

# 空間計画・デザイン能力

建築物を設計するために、都市やウォーターフロントなどに関わる空間計画手法とデザイン技術の知識を身につけ、人間に快適な陸域・海域に立地する建築物の計画・デザインができる。

- 【1年生後期】 ベーシックデザイン演習、建築計画Ⅰ
- 【2年生前期】 デザイン演習Ⅰ、建築計画Ⅱ、親水空間計画、建築法規
- 【2年生後期】 デザイン演習Ⅱ、建築デザイン史、ウォーターフロント計画Ⅰ、海洋資源と開発技術
- 【3年生前期】 デザイン演習Ⅲ、建築計画Ⅲ、ウォーターフロント計画Ⅱ、海洋施設計画
- 【3年生後期】 建築計画及び演習、海洋空間計画と関連法規、防災安全工学

## 幅広い科目設定



建築の基礎となる設計製図科目では、海洋建築工学科の教員だけでなく、ゼネコンや設計事務所などで活躍する建築家を外部講師として招き、1教員あたり15名程度の少人数教育を行っています。



設計製図科目はスケッチや小さな模型作りから始まり、その後住宅や水族館など段階的に規模を大きくします。また、建築計画を同時に学ぶことで、人々にとって快適な空間をデザインできるようになります。



ウォーターフロントの都市は、海を玄関とした交易により発展し、常に歴史の最前線を担っています。過去から現在において、水辺の都市がどう変化してきたのか、将来どのように利用されていくかを学びます。



海洋空間の利用は、建築だけでなく資源開発の分野でも重要です。そのため、洋上風力発電など、多方面から海を活用する方法を学びます。

## 将来の技術者像 (本学科OBOG)



寺尾 浩康

清水建設株式会社 設計本部  
商業・宿泊施設設計部 部長



人工浮体都市「グリーンフロート」

### 『海上を睡蓮のように漂う未来都市グリーンフロートの提案』

私は現在、商業・宿泊施設や大型複合施設などの企画・設計を担当しています。その中で、2008年には会社内の企画で、近未来を想定した環境共生型の人工浮体都市「グリーンフロート」の意匠設計者としてデザインを手がけ、同時に構想の骨格と目的を立案するなど、プランニングも担当しました。グリーンフロート提案の背景には、陸上における人口増加や資源枯渇といった非常に大きな問題があり、課題解決のために広大な海洋をどう生かしていくかは今後の重要なテーマです。そのため、海を活かした新たな提案をする際の基礎知識を得ることができるデザイン演習や海洋施設計画など、とても貴重な授業だと思います。



舟岡 徳朗

株式会社 大林組 シンガポールにて  
コンストラクションマネージャーとして勤務中

### 『海建での経験を土台に、海外で建築をつくっています』

海建の計画系科目に親水空間計画という授業がありました。水辺にいるとなぜ気持ちよいと感じるのか、世界の名建築は水空間に対してどのように建築計画をしているか、といった授業でした。水と建築の関わりを分析する楽しみを知りました。また在籍した研究室のプロジェクトで、過去に例のなかったアルミでできた海の家を設計施工させて頂きました。授業で得た知見を活かし、仲間と一緒に図面を描いて丁寧に施工しました。この経験を通じてチームで建築をつくる仕事に魅力を感じ、大学卒業後は建設会社に入社しました。海建での経験を土台として、現在は多国籍なスタッフと共にシンガポールで働いています。

## 構造系科目群

# 構造設計・施工能力

建築材料の性質・特性に関する基礎知識

および構造力学・構造解析の知識を身につけ、ウォーターフロントの超高層ビルや海上プラットフォームの構造設計・施工ができる。

【1年生前期】力学基礎

【1年生後期】建築構造及び材料Ⅰ、構造力学及び演習Ⅰ、  
海洋建築実験ⅠB

【2年生前期】建築構造及び材料Ⅱ、構造力学及び演習Ⅱ

【2年生後期】海洋建築の材料と施工法、建築施工法、  
地盤環境工学、構造力学及び演習Ⅲ、  
海洋建築実験ⅡB

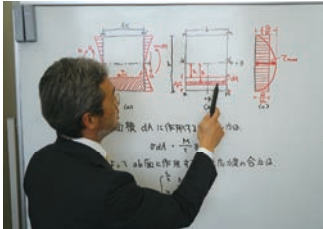
【3年生前期】海洋建築物の構造計画、コンクリート構造  
及び演習、構造解析、構造力学及び演習Ⅳ、  
海洋建築実験Ⅲ

【3年生後期】浮体工学及び演習、鋼構造及び演習、  
振動工学





## 幅広い科目設定



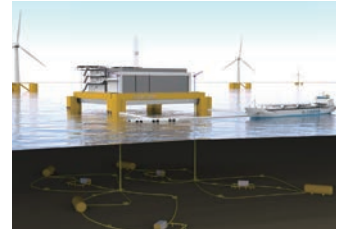
建築物の設計には、柱や梁に力が作用した際、どう変形するのか理論的に理解する必要があります。図式解法から構造力学を学ぶことで、安全な建物を造る構造設計の基礎知識を修得します。



海洋建築を学ぶには、座学だけではなく実験が欠かせません。国内有数の実験施設で建築部材にかかる力と変形との関係を学び、実際に部材模型を製作・強度実験を行うことで、構造の理解を深めます。



建物に用いられるコンクリートにも様々な種類があります。一般的な鉄筋コンクリートに限らず、海洋構造物や津波避難施設に適した特殊な素材についても、その特性を実験で理解していきます。



海洋建築物では浮体式構造を用いることもあります。水面に構造物を浮かべるために必要な知識だけでなく、安全性・居住性・機能性を確保するために考慮すべき基本事項を修得します。

## 将来の技術者像 (本学科OBOG)



仁木 秀巳 株式会社大林組 本社 設計本部 構造設計第三部



▲LOOP50構想

◀OYプロジェクト

### 『ゼネコン構造設計部の役割』

私は現在、集合住宅やショッピングセンターなど様々な用途の建物の構造設計を行っています。構造設計とは、建築の設計のうち主に安全性に配慮した構造に関して設計を行うことです。具体的には地震や台風などの自然災害により建物が崩壊し人命を失うことがないように安心安全な建物を設計するとても重要な仕事です。大学で学ぶ構造力学および演習は、構造設計を行う上での基礎知識を得ることが出来るとも貴重な授業だと思います。なお、最近では日本初の高層純木造耐火建築物やLOOP50構想など(完成予想図は大林組/ナフレット「大林組の木造への挑戦」より掲載)新しい分野にもチャレンジしています。

日本初の構想純木造耐火建築物：[https://www.obayashi.co.jp/news/detail/news20190723\\_1.html](https://www.obayashi.co.jp/news/detail/news20190723_1.html)

LOOP50：[https://www.obayashi.co.jp/kikan\\_obayashi/detail/kikan\\_58\\_idea.html](https://www.obayashi.co.jp/kikan_obayashi/detail/kikan_58_idea.html)



北小路 結花 ジャパン マリンユナイテッド株式会社  
商船・海洋・エンジニアリング事業本部

### 『海洋再生可能エネルギー実用化のために』

私は石川島播磨重工業株式会社に入社し、船舶海洋部門(現 ジャパン マリンユナイテッド株式会社)で、海洋資源開発や設計情報管理システム開発等の仕事を手掛けてきました。2011年からは世界初の「浮体式洋上ウィンドファーム実証研究事業」に参加、その他海洋温度差発電や海洋環境モニタリングシステム等の分野で、技術者・プロジェクトマネジャーとして、海洋再生可能エネルギーの商業化に尽力しています。このような未知の世界を切り拓く仕事では、建築や土木、海洋などの分野を統合したセンスが必要で、建築工学を基本とし設置されている浮体工学や海洋建築施工法などを学べるのはとても貴重なことだと思います。

環境系科目群

# 環境の持続的利用能力

地球物理学や海洋環境学の基礎から応用までの知識を活かした  
海洋環境の維持・管理・保全ができる。

【1年生前期】 海洋建築実験ⅠA

【1年生後期】 基礎海洋学

【2年生前期】 海洋建築実験ⅡA、海洋及び環境計測、  
海洋流体力学及び演習

【2年生後期】 海洋環境工学Ⅰ、水波工学及び演習、  
建築環境工学

【3年生前期】 海洋環境工学Ⅱ、沿岸域工学及び演習、  
建築設備

【3年生後期】 海洋環境アセスメント

## 幅広い科目設定



1年生、2年生時には、夏に東京湾で調査船に乗る機会があります。海洋データの観測や生態環境の調査を実際に行うことで、基本的な海の特徴を学んでいきます。



都市の開発を行う際には、自然環境との共生がとても重要な課題となります。持続可能な開発を行えるエンジニアとして活躍するためにも、海的环境や生態系について学びます。



環境系科目群の実験では、二次元水槽を用い、波の特性を横から観測します。これにより、波を受ける海岸線や建築物にどのような影響が生じるかを知ることができます。



自然災害を学ぶのも環境系科目群の重要な役割です。台風による高潮や津波によって、沿岸部はどのような災害が発生するのか、それを防ぐにはどうしたらよいかを学ぶことができます。

## 将来の技術者像 (本学科OBOG)



高山 百合子

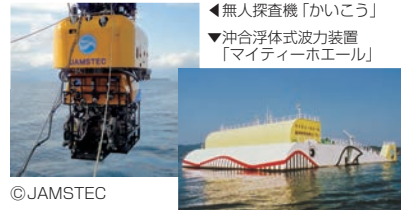
大成建設株式会社 技術センター 社会基盤技術研究部  
水理研究室 水域環境チーム チームリーダー



英虞湾での干潟再生実験

### 『陸地から海中までの連続した生態系再生を目指す』

水域環境チームでは、海や川の工事で影響を受ける生態系の保全、工事により排出される濁水や泥水などの水処理、環境に優しい建築資材の開発、建築工事により発生する濁りや匂い等の防止対策など、幅広い環境の問題に取り組んでいます。私はそこで海洋・河川工事の支援業務として、流れや水質の解析業務と水域環境を保全するための技術開発に携わっています。ここ数年の研究テーマとしては、水域環境を保全するための海草の移植や生物モニタリング技術の開発を進めています。また、解析や研究開発の業務を通して、支援できる水域環境の領域を広げるにも取り組んでいます。



© JAMSTEC

◀ 無人探査機「かいこう」  
▼ 沖合浮体式波力装置  
「マイティールホール」



大澤 弘敬

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 深海資源調査  
技術開発プロジェクトチーム プロジェクト長

### 『フロンティアへの挑戦 - 海洋を拓く研究開発 -』

海洋研究開発機構では、我が国にとって重要な課題である海洋エネルギー資源の研究開発を実施しています。特に海洋エネルギー利用の観点から沖合に浮かぶ浮体式の波力発電システムや海底に存在するメタンハイドレート、レアアースなど深海資源を調査するためのプラットフォームの開発を行っています。これらの開発では、設置または稼働する海域の波や流れ、風などの海洋環境条件や構造物を設計するための力学の知識が必要不可欠です。海洋建築工学科で取り組んでいる海洋環境工学、海洋流体力学、水波工学などの科目の内容は、今までの経験より、まさにフロンティアである海洋を拓く研究開発に役立っています。

# 教員紹介



## 浮体運動工学

教授  
居駒 知樹  
博士（工学）

浮体の動揺性能、波一海洋構造物の相互干渉、海洋再生可能エネルギー利用技術、海洋空間利用



## 耐震構造工学

教授  
北嶋 圭二  
博士（工学）

耐震構造・耐震設計、免震・制震構造、氷海構造物、鉄筋コンクリート構造物、地震防災



## 海洋建築・建築計画学

教授  
小林 直明  
博士（工学）

意匠設計、デザイン、研究施設計画、災害対応まちづくり計画、建築ストックの再生デザイン



## コンクリート構造工学

教授  
福井 剛  
博士（工学）

鉄筋コンクリート構造、プレストレストコンクリート（PC）構造、せん断破壊機構、プレキャストPC圧着工法



## 沿岸環境防災工学

教授  
星上 幸良  
博士（工学）

沿岸域環境の改善・修復・創出、沿岸域の防災、沿岸域の管理と住民合意形成、環境計測技術、環境モニタリング



## 構造計画・設計

准教授  
惠藤 浩朗  
博士（工学）

海洋建築物の構造計画・構造設計、海洋建築物の運動性能、浮体式海洋建築物を活かした海洋空間利用



## 建築構法

准教授  
高橋 孝二  
博士（工学）

鉄筋コンクリート造超高層建築物の構造設計、プレキャスト鉄筋コンクリート工法の構造性能および施工法、免震・制震構造の設計及び解析、中大規模木質構造の基礎研究



## 沿岸地域計画学

准教授  
山本 和清  
博士（工学）

沿岸域のまちづくり、地域活性化、社会福祉計画、水辺のユニバーサルデザイン、サイン計画、沿岸域防災避難計画



## デザイン・建築計画学

専任講師  
佐藤 信治  
博士（工学）

デザインコラボレーション、水族館、セルフビルドハウジング、透視図空間、海洋建築・建築デザイン



## 沿岸防災・数値流体力学

助教  
相田 康洋  
博士（工学）

粒子法、津波漂流物の衝突問題、係留船舶の動揺シミュレーション・津波避難場所の適地選定



## 親水工学

助教  
菅原 遼  
博士（工学）

水辺のまちづくり、市民・住民参加、公共空間活用、公私計画、親水空間デザイン、海洋建築計画


**ウォーターフロント都市工学**

助教  
寺口 敬秀  
博士（工学）

ウォーターフロントの都市計画、都市政策、防災計画、地域振興、観光、マリンレジャー


**海岸工学**

助教  
野志 保仁  
博士（工学）

海浜変形予測、海岸保全計画、海岸侵食対策、砂浜保全、養浜技術開発


**沿岸域工学**

特任教授  
小林 昭男  
工学博士

海浜環境調査、海浜変形予測、海浜環境 GIS、海岸侵食対策、海岸環境共生、海岸・港湾構造物の設計と施工


**数値流体力学**

特任教授  
近藤 典夫  
工学博士

海洋汚染、海水の流れ、境界移動問題、大型海洋構造物の運動性能、座屈問題、不安定現象、構造物の渦励振


**ウォーターフロント都市工学**

特任教授  
桜井 慎一  
工学博士

水辺の空間デザイン、水辺居住計画、海洋景観計画、環境価値評価、ウォーターフロントの防災計画


**海岸工学**

客員教授  
宇多 高明  
工学博士

海岸工学、海岸地形学、沿岸域管理


**港湾工学**

客員教授  
大野 正人  
博士（工学）

空港計画、広域地方計画、臨海部防災、運輸安全工学、インフラ海外輸出


**海洋開発政策・海洋開発技術**

客員教授  
高橋 浩二  
博士（工学）

沿岸域インフラ計画、海洋利用保全、SDGs、港湾DX・自動化技術、沿岸域防災


**海洋開発工学**

客員教授  
丸山 康樹  
工学博士

地球温暖化の予測、CO<sub>2</sub>削減対策（緩和）、エネルギーシナリオ分析、海洋再生可能エネルギー（波力）


**建築デザイン**

客員教授  
光井 純  
M.Arch.

建築デザイン、街づくりデザイン、スマートシティ、ウォーターフロントデザイン


**港湾工学**

客員教授  
宮本 卓次郎  
博士（工学）

港湾・津波防災・港湾 BCP・海洋利用・港湾構造物

## 進路・就職

# 時代に即した就職支援プログラムと日本大学の強固な OB・OGネットワークにより、毎年100%の就職率を達成しています。

経済動向により大きく変化する就職環境への対応と、早期に自己の将来像を確立させることを目的に、2年生より授業カリキュラムとしてキャリアデザインの講座を実施しています。建設業を志望する学生向けには本学建築学科との共催による巨大なOB・OGネットワークを活かしたイベントを、海洋・海洋建設関連業を志望する学生向けには学科独自開催による海建OB・OGとの懇談会を開催し、優良企業と学生を有機的につないでいます。その他にも複数回のガイダンスと業界説明会により就活スケジュール感を持たせ、インターンシップ選考・適性WEBテスト・履歴書作成・コロナ渦におけるオンライン面接に関する対策講座により就活実践力を高めます。

### ●主な就職先(実績)

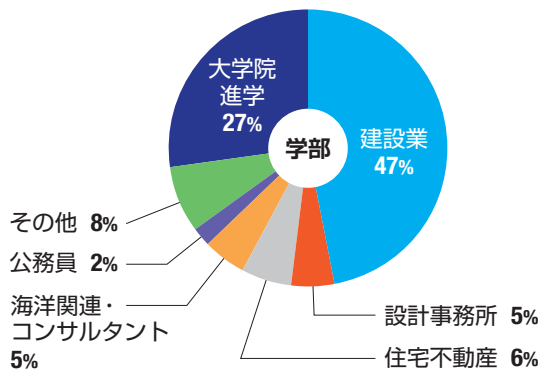
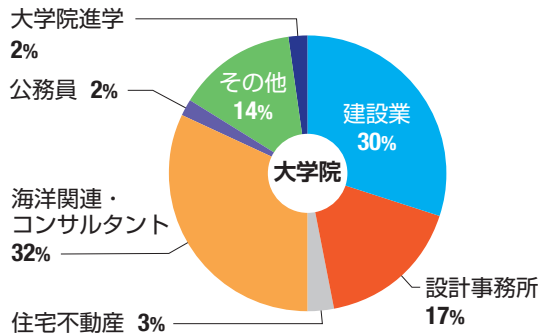
■ 建設業	大林組/鹿島建設/清水建設/大成建設/竹中工務店/長谷工コーポレーション/戸田建設/前田建設工業/安藤ハザマ/三井住友建設/フジタ/熊谷組/西松建設/東急建設/鴻池組/高松建設/奥村組/鉄建建設/青木あすなる建設/東鉄工業/飛鳥建設/ピーエス三菱/松井建設
■ 設計・コンサル業	NTTファシリティーズ/日建設計/三菱地所設計/日本設計/久米設計/JR東日本建設設計事務所/山下設計/梓設計/佐藤総合計画/松田平田設計/安井建築設計事務所/大建設計/石本建築事務所/横河建築設計事務所/伊藤喜三郎建築設計事務所/日本工営/パシフィックコンサルタンツ/建設技術研究所/八千代エンジニアリング/オリエンタルコンサルタンツ/日水コン/国際航業/ニュージェック/いであ/東電設計/大日本コンサルタント/長大/オオバ/東京建設コンサルタント/アジア航測/日本港湾コンサルタント/日本ERI/昭和設計
■ 住宅・不動産業	大和ハウス工業/積水ハウス/住友林業/旭化成ホームズ/セキスイハイム/ミサワホーム/一条工務店/パナソニックホーム/オープンハウス/三菱地所ホーム/タマホーム/野村不動産/住友不動産/三井不動産/スターツ/山万/伊藤忠アーバンコミュニティ/東急ホームズ/ポラス
■ 海洋・海洋建設関連業	五洋建設/東亜建設工業/東洋建設/不動テトラ/深田サルベージ建設/ジャパンマリンユナイテッド/日立造船/三井E&S/三井海洋開発/JFEエンジニアリング/日揮HD/千代田化工建設/東芝プラントシステム
■ 設備関連業	新菱冷熱工業/高砂熱学工業/新日本空調/関電工/タカラスタンダード/能美防災/YKK AP
■ 公務員	国土交通省/経済産業省/財務省/防衛省/水産庁/東京都/千葉県/神奈川県/埼玉県/茨城県/山梨県/静岡県/石川県/広島県/佐賀県/長崎県/沖縄県/東京都教育委員会/東京23区/札幌市/仙台市/さいたま市/千葉市/川崎市/横浜市/名古屋市/京都市
■ その他	都市再生機構(UR都市機構)/海洋研究開発機構(JAMSTEC)/石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)/漁港漁場漁村総合研究所/東京電力HD/日本原子力発電/東日本旅客鉄道/NTT/ソフトバンク/大王製紙/栗田工業/乃村工藝社/日本郵政/ゆうちょ銀行/オリエンタルランド

## 資格

# 高い専門性を証明する資格の取得に向けて支援しています。

海洋建築工学科において、指定の科目単位を修得することで、卒業と同時に一級建築士の受験資格を得ることができます。

また、技術士一次試験の受験も推奨しており、近年は在学中の合格者も増加しています。



過去5年（2017～2021年度）の就職先業種分類

## 大学院進学



### 横田拓也 (よこた・たくや)

博士後期課程 銚田第一高等学校 (茨城) 出身

私は幼い頃から海や湖などに訪れる機会が多く、水辺に親しみがあり、将来は海にかかわる仕事がしたいと考えていました。その中で海洋建築工学科を選んだのは、建築分野と海洋分野の両方を学ぶことのできる教育環境に魅力を感じたからです。入学後は海洋建築分野の中でも、海岸やその背後地などの沿岸域の環境保全に興味を持ち、卒業研究では風によって砂が移動する現象（飛砂）による、海岸背後地での地形変化についての研究を行いました。その後、自らの専門知識を深め、それを活かした仕事がしたいと思い大学院に進学し、現在は海岸および背後地の地形変化を一括して予測できる地形変化予測モデルの開発を行っています。将来は国内外の沿岸域の地域計画に携わり、そこに住む多くの人を幸せにしたいという目標を持ち、日々研究を行っています。

## 就職



### 山下和浩 (やました・かずひろ)

株式会社 竹中工務店 東北支店作業所勤務

入社1年目は大阪本店勤務となり、新入社員約200名と共に寮生活を送りながらジョブローテーションを経験し、その中でも地上200mを誇る超高層ビル建設に携わってきました。入社2年目を以降は東北支店配属となり、震災復興事業として大規模病院施設の新築工事に携わっています。海洋建築という特殊なフィールドで学んできた経験があったからこそ物事を広い視野で捉えることができ、多様な知識・ノウハウが求められる施工管理業務においても臨機応変に対応できています。

## 【目指せる資格】

- 建築士（一級・二級・木造建築士）
- 技術士
- 土木施工管理技士（一級・二級）
- 宅地建物取引士
- 構造設計一級建築士
- 建築設備士
- 管工事施工管理技士（一級・二級）
- インテリアコーディネーター
- 設備設計一級建築士
- 建築施工管理技士（一級・二級）
- 不動産鑑定士

【資格取得支援講座】一級建築士学科対策基本講座・公務員試験対策講座・宅地建物取引士・基本情報技術者・技術士補（建設）・TOEIC対策講座（eラーニング）

【教職課程】教職課程では、海洋建築工学科の所定科目を履修することで技術（中学校1種）・工業（高等学校1種）を取得でき、他学科設置の所定科目を履修することで数学や理科などの教育職員免許状を取得できます。

学科  
WEB

学科ホームページ



facebook



Twitter



instagram



Youtube



日本大学工学部 海洋建築工学科

〒274-8501

千葉県船橋市習志野台7-24-1(船橋キャンパス)

TEL : 047-469-5420 FAX : 047-467-9446

<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp/>



NU | CST